蕪村翁文集

乾

無村翁文集序

なのれ年は花村翁の風雅をと
ゝなゝるゆゑあはゝ西ある人ゝの
賞なとあり名てにいつのゝと
ふゝ貧ゝのゝとゝ高ゝのゝとゝ
ゝもまゝあゝあゝとゝゝあゝの
ゝゝとゝゝ菊金ゝのゝゝゝゝゝ
伊ゝ路ゝよゝもゝくゝとゝて清ゝ水
けゝゝゝゝゝ

このたびくにもとまれる
ものあるをもてあハせて梓り
ひんまいとかるをもんのすゑに
心らひして跡を冊るとゝみて
ものめかくて世をはゝんか
をるを待
文化丙子春

湖東獨言人

九　例

義村家文集八先年自吾妻の
門人寧所子ゟ仕ル書あ仕ル
ら稿ありしゆゑの仕ル
其稿矣あるゆゑをもて
已ものを毎ゟ文をもてひゝ
まかも冊ゟるまゝの世て書あつ
さ所ものありたて湖東更ゟ
おの心ゟ事とゝんをれを

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕪村文集乾

一歳旦辞　一賀辞
一拾遺辞　一追慕辞
一歳旦説　一夢説
一芭蕉堂再興記　一宇治行
一馬堤曲　一懐孟説

一土器賞賛
一俳仙賛
一[illegible]の賛
一孤の[illegible]
[illegible]賛

蕉村文集乾

洛　竹巣月居　閲
湖東　其獨亭忍雪
洛　醉菴甚成　輯

序

[illegible]

祇園[illegible]の[illegible]
[illegible]律蕉門[illegible]
[illegible]盛序

[illegible]

賀辭

清らのく乃高を仕へ奉り又もや松の
みどりをまして千まかつを祈りさに乃
ゑしの玉風吹つくて清きを為の
ちとせくらけを大和の為なる何来乃こと
う本郷の賀ふ申し清る

一字傳言

大和伊名いの為る思の為をあ

賀辭

さくらの花をうゑの木分をて与り雪の
松をいろ〻紅に風流いをらに為くる
乃こゝ為をくうき世のわさたくるーみ
そのくをそとやなるまーさのこゝいかく
為をむしなとかくれもいをるをーこと
もえをくさけを清るを嬉を花を
ゑ喜賀をなたの八百世の為を
き為を祝をくを為のこおろをれ

やうなる人はおもてはなれぬ
地なり

花ちるまでの月のやどりやひの長閑

追慕 辭

古代紙巻子十三回迷宮の俳諧なるべし
かまこりるは風流なるにあらずかまこりるは
ゆゑなるのみにやいにしへ人の思ひ
よせを義仏やるゆゑなるべし

と云罵りてゆゑなく行先の出でゝ
はるかくかくして不歌舞ふるお
ぬらの終生流行風流を思ふにあらず
ゆゑなきゆゑなるべし乃師をなつかしき
ゆゑ新て俳句おもふべ
線香やはるまるのすき二三本

紫貝 說

ちゝ紫貝のあるべしなれば

みるに編目なほるまハ日の枝の
あらはきおもゆゑるはやきるねの末るを
ていふやうおのをいとちかくよの美ふね
ふたのまをまいせてゑるちまるる
はるはきれなるらよれはのてなれて
ろをあるるをきあまはいさるまね
てあるとてゑはみるはて松松の
みをゑるふもをてさまる我
はるをのいあるの隈る植おきねるかき

ゆをきるるをひをもえををんん
るるひくるいるるてえるまなるあゆゑ
るるれるるきてあるるるむるかる
やるまれしてかの武蔵の古るおも
出るをるかるるやれる
をの門や松るをみるををの松

夢説

ゆるる梅をるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫芝やう手のうへにをつむとらへ
ものなくて一炉の茶煙をふるむらめし
水り雲行をまねき雨アをまねく
懷古の情ハ独りやうにく豆あ名利の
境を離るとハいつくもむるに俗世を
ハなれもあるハ難ハのあ中ハ離を俗
て樵牧乃路門を免れ田園書
ゆ系ものらく酒を汲ハ粮も尽きに
ハをまに泊人ハ所のおはなしてまの

乃果を貧陋ハ者ハうまもよく飢をふせ
くまの自ものも自生なるく一折い清の
清ものさい四ハ本ものるにやそなかる
書まるつ女ハ芭蕉をとへいかに
ハかをを招るまもくなき名なをなし
ちるを人平ハをを清をまをを霧ハのうへ
鏡舟とハいる大地ハの寺ハ住たまひる
ハ別ハ一宮ををををろに接ハ手月
雪炭の夢をたのをを宮を術ハ

深くかきまぜたり。蓬の根の
白をゆるがせる。洞の中にこもりて
と忘れ逃れ隠れの所をもとめて
ゆくすがたをかくしたりける。
蓬の根の東西にはしりまどふ
の絵の屏風のおもかげ思ひ出
に代謝の時を感じ。或は
は蓬屋茅屋の情景を賦し。
乃ち情景を叙

情をあらはして夢を語りいはんと
うちうちの外によるべきのみや雲を
ゆきつらん孤山の風流を奏ひ大自然の
樂の材を賦して唐の詩人の
雪をはひ白の色をして物れ一望
乃ちに杜甫の皆を決ひて幸時の
杖の脚となるに一世の妙境を極めひ
乃ちされい都絵画のたるをよきもこれ
をもくは為ひ無ひめひるる

ゑ寺さきをはなれ給ひて
なるまたるまひしの乃ちかの大德めく
あけきてきたないち卅堂を苗蓋
と差けなるゐの風穀をさそそ
き立ちるなへ毒まひりるかるゐ
ゐをよろこひて直下ゑ石つくるゑと
吳うすくもよたはしゑみるよそ
ちいあまきしかとゝ乃て苗ゐの
口舞ゐもと世ゐなのゑもはうすま

ていめるるの葉のうみふにかけ
きいそしてうあうそひさうゑ
ゑ孫往侶於宮時の四ちをきうま
我をさうしかうをとわうへやうまま
ゐる弟ちゐのゐねつうなきゑ
江入れりてのうをみなるましひうる
まて世ゐあまし蒼老のふゑ乃ちち
ゐもんりきさう抱うまし行ゐ
きれい弟ゐおのきえ乃ゑ蓋の久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるまでなるこの方紙に父母庵先生の
蕪村翁のもとにて乃ち学ひたまふ
ゆゑにて杉をもて書きて作まいらせ
たるを今此巻にのせるものも大な
なるあさぢの色なるなるべし

宇治紀行

宇治山の南田原の里に山ふく家
特に杉なるまわきにちいえものを貪
里先生巻ひ寄せたる石に腰をて
出でる野ふくさしもをるに
巻の中生えなる松に五葉を
はるまあふめけまいに宇治紀行
陸奥の山にもこけのあるいきける
そらあめのひてかて杉苔のめてる
こ[illegible]ーのひとこ。こや

果てんや 杖をの苔 小春の日
最る頃 人多くて 尾村

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

逆鐵騎突出刀鋒鳴四絃一声如裂帛

[illegible]

[illegible]

帛を[illegible]

余一日問耆老於故園渡
澱水過馬堤偶逢女歸省
卿者先後行數里相顧語
容姿嬋娟癡情可憐因製

歌曲十八首代女述意題

曰春風馬堤曲

春風馬堤曲　十八首

[illegible]

堤下摘芳草　荊与蘇塞路

荊蘇何無情　刻衣裾且傷股

溪流石點点　踏石撮香芹

多謝水上石　教儂不沾裙

一[illegible]の菜[illegible]の柳[illegible]

菜店の老[illegible]

[illegible]

店中有二客　能解江南語

酒錢擲三緡　迎我議榻去

[illegible]

呼雛籬外鷄　籬外艸滿地

雛飛欲越籬　籬高隨三四

[illegible]

たんぽぽ花咲ころとなりて五月に
入りて白し　記得て去る年はかの
悔しる菴に笠置して記を混
むしくさまるに打ちよる長母乃急
長母の懐紙あり其ころ
其ころ成りて法名ありあるを
梅ちる命は法名財宝の家
其情まちがるる法名法流
御を解し　安永員て分三年

本をわすれまをまを取接本の梅
部行其御　行てて又行て
親戚本地ひくくくくくる
矯首ゑめて見る故園乃春草皆
戸を倚る白髪の人牙を抱きまを
待春又春
君不見古人在紙ら白
義入の様るやひとらの歌の側
酒河歌之首

春水浮梅花　南流菟合澱
錦鏡君勿解　急瀬舟如電
菟水合殿水　交流如一身
舟中顧同寢　長為浪花人
君去水去の梅乃ち花みて
浮て去て急急急し
高去の梅の新みて新みた
使て去て加去て去てなるなり

春景見

春去も春行かてくるもしあり
春去春行かてくるもしあり
いくたびか春を見ては
春去春行かてくるもしあり
春去春行かてくるもしあり
春去春行かてくるもしあり

[illegible]
上下ノ船ヲ堤ニ往来ノ家アリ甚ク
田宅畑ノ所ニ流レ込ミ
所花の時節ニ成ル
故ノ見物ヲ
命ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]

螺盃銘

むらくもの
至りて
賀と献
かるとよ
いくもの
るんるる
にの南
なるる

ゆのうやさる
妃の配偶
おのくかたら
甲を
れ弟
たる男を
実輝人を
歌を
得て
のの
ものくかの風を
を
て

宴すむ
蔭を
甘露
り陰て
たを
る果
弟を
仙野
ゆ
ゆ
ゆ

一盃又一盃もてるまゝに伽てゝ
らすゑ万年をこそ

土器賣歴賛

源氏のものがたりみてゝ
さてもあやしくかゝれ
かゝりけをたゝていつもとゝ
まらそみつゝねしいてゝ、みやこの
町うをひきあつくふゝ書そ

何いとなむともなくそのとねて
ゆくゝうれたきまてその数いく
たくとらすさてらす世日はよる
光のてゝたもあるりかなさゝし
れるのゝひうやあまそいとゆし
きたゝなる程

おもかゝもうゝけくゝものあ

翁の賛

陸九齢之墓の後の裏に白形をと傳
みよ山の清き流れの風彩を
紙にうつしひとるものの清さあるもいつ捉
のうちのうの人といふことをしらず常
に貧しきものたちえいくばくなるの
義をうみすてる者をして精神の地
をいとひて能らのの時のの清さ
社へおのれうちうちうちの者白
を色をを資の人々をまらされえ

りうたのうちまもなく一点生前一
盃の茶に水分のの栄あるのかなほ
さを一口清潔の時のさうひ是不見い
清をうやもうきよかんるをあて
むりうの国らえるの時らなるんるを
いうくらかんるて
黄ものや清の息のかるる時
黄水のるる乳もなきるるる
ひてをうの解したるものの清

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
なくてとまるる住居をいとおもひて
かの住ひらとよりなるを名まをめて
てゆ[illegible]とてゆくゑかなることなり
[illegible]ゆの夕やるるの秋ふの意備
[illegible]きたるのはなるはくれ
面る紙をふいれてとみる
はけ[illegible]